

# 「見えない価格」

—初稿—

2026/5/10

米俵

〈人物表〉

下田 裕子 (52) 文具店店長

アカネ (9) 小学生

サナ (9) 小学生

かえで (9) 小学生

小学生A

小学生B

## 1. 下田文具店・外観（昼）

築数十年の古びた文具店。少し汚れた看板には「下田文具店」と書かれている。

入口には、「シール入荷」と書かれたポップが貼られている。古い外観からは浮いている。

## 2. 下田文具店・室内（昼）

商品は、シンプルなものからキャラクターものまで揃っているが、少し古びている。

下田裕子（52）、入荷したボンボンドロップシールを並べる。

「一人一点」と簡素に書かれたメモを確認。

裕子、レジ横の引き出しから、古いシール帳を取り出す。可愛いシールが沢山貼られている。

その中から一枚選び、シールコーナーのメモに貼る。レジに戻り、お客を待つ。

暇そうに、スマホで「下田文具店」を検索。

星は3。口コミの内容には「品揃えは良い。でも、入りにくい」「店員の女の人がちよつと怖い。店内の匂いも気になる」と書かれている。

裕子、匂いを嗅ぐ仕草。そのまま入口へ。

入口の自動ドアを開けたままにする。

シール入荷のポップが見えにくくなる。

裕子、大きく溜息。

そこへアカネ（9）とサナ（9）が近付く。

アカネ 「あの……シールって」

と、貼られたポップに視線を向ける。

裕子 「えっ。あっ。はい。入ってますよ」

小学生2人、こそこそと話す。

アカネ 「それって、ぷくぷくしてるやつですか？」

裕子 「ボンボンドロップシールね」

サナ 「まじ？ やば」

と、小学生2人、顔を見合わせる。

裕子、2人をシールコーナーへ案内する。

裕子 「はい、ここね」

2人、興奮した様子で、

アカネ 「ねえ、これ見たことない」

サナ 「アカネちゃん見て。これも可愛い」

裕子 「ゆっくり選んでいいからね」

2人、シールに夢中で聞こえていない。

裕子、嬉しそうにレジの方へ戻る。

× × ×

アカネとサナがレジの方へ来る。

アカネ 「すみません。これ一人一点しかダメですか？」

手には数枚のシール。

裕子 「……種類は全部違うのかな？」

サナ 「はい」

サナがシールを見せる。

裕子、2人の期待するような顔を見て、

裕子 「それなら……特別ね」

サナ 「やった」

アカネ 「ほらね、聞いて良かったじゃん」

サナ、頷く。

裕子、会計をする。

裕子 「また来てね」

サナ 「新しいのでますか？」

裕子 「水曜日にまた入荷するよ」

サナ、興奮した様子で、

サナ 「アカネちゃん！」

アカネ 「ねえ、みんなには秘密にしよ」

サナ、笑顔で頷く。

2人、店を出ていく。

### 3. 下田文具店・室内（昼）

T 「水曜日」

アカネ、サナを含めた数人の小学生が、ランドセルを背負ったまま入ってくる。

裕子 「いらっしやいませ」

裕子もシール棚の方を見に行く。

アカネ、得意げに、

アカネ 「ほら、あるでしょ？」

小学生A 「わっ。これ、知らない」

小学生B 「レアじゃない？」

と、シールを触ろうとする。

アカネ 「ちよっと！」

サナ 「順番だよ」

小学生が棚の前に並ぶ。

アカネ 「かえでは最後に並んで」

かえで（9）が言われたまま、最後尾に並ぶ。

裕子、その様子を見ている。

アカネが一番初めにシールを選び、レジに向かう。

続くようにサナが選ぶ。

かえで、その後ろ姿を見ている。

裕子、慌ててレジに戻る。

裕子 「こんにちは」

アカネ 「こんにちは。今日も、いいですよね？」

数種類のシールを差し出す。

裕子、会計をしながら、

裕子 「特別ね」

アカネ 「今日来た子、みんな特別でいいですか？」

裕子 「種類が違いばね。交換とかしてるの？」

サナが後ろから、

サナ 「シール帳三冊目！」

と、ランドセルから取り出そうとする。

アカネ 「やめなっつて」

サナ、動作を止め、アカネの表情を伺うように見る。

アカネ、サナを睨むように見ながら、

アカネ 「次はいつ入りますか？」

裕子 「多分、金曜日かな……入荷が遅れるみたいで」

アカネ 「金曜日行ける？」

サナ、頷く。

アカネ 「じゃあ決まり」

裕子 「ありがとうね」

アカネ、サナ出口へ。

小学生たちも会計を済ませそれに続く。

アカネ、シール棚の方に声をかける。

アカネ 「かえで、まだ選んでんの？ 先行くからね」

かえで 「ちよっと待って」

と、急いで一枚だけ取り、アカネ達の方を見る。

アカネ達、無視して出ていく。

かえで、それを見て、ゆっくりとシールを戻す。

裕子、かえでに声をかける。

裕子 「悩んじゃうよね」

かえで、急に声をかけられ驚く。

裕子 「あつ、ごめんね」

かえで、ゆっくりと頷く。

裕子 「シール好き？」

かえで 「みんな持つてるから。私は全然だけど」

裕子 「流行ってるよね」

かえで 「あの……」

と、言いにくそうにする。

裕子 「どうしたの？」

かえで 「今日は、買わなくてもいいですか？」

裕子 「全然大丈夫だけど。いいの？」

かえで 「みんな買ってたから。交換してもらえない」

裕子 「……みんなが持つてるのはダメってこと？」

かえで 「すみません」

と、お辞儀して、店を出て行くようにする。

裕子 「私で良ければ、交換する？ 古いシールだけど」

かえで、立ち止まり、裕子の方を見る。

裕子、急いでレジ裏からシール帳を持ってくる。

裕子 「これ」

かえで 「かわいい」

裕子 「いいよ、好きに見て」

かえで、嬉しそうに見ていく。

裕子 「交換したいのあったら言ってね」

かえで 「……これでも大丈夫ですか？」

かえで、急いでランドセルからシール帳を取り出す。  
流行りでないシールが並んでいる。

裕子 「どれも可愛いね」

かえで 「本当に？ このシールでいい？」

裕子 「もちろん。どれがいいかなー」

かえで、嬉しそうな笑顔。

裕子のシール帳を一生懸命眺める。

裕子、その様子を見る。

かえで 「これがいい」

と一枚のシールを指さす。

裕子 「いいの選んだね。私は……これがいいな」

かえで 「じゃあ、交換ね」

2人、シールを交換する。

かえで、交換したシールを眺めて嬉しそうにする。

かえで 「また来ていい？」

裕子 「待ってるね」

かえで、店を出る。

裕子、手を振る。

#### 4. 公園の側の道(夕)

T 「木曜日」

裕子、スーパーの袋を持って歩く。

公園から声が聞こえてくる。

裕子、声の方を見る。

アカネ、サナ、かえでを含む小学生が公園で集まっている。

裕子、歩く速度をゆるめる。

#### 5. 公園(夕)

アカネを中心に輪が出来ている。

サナ 「じゃあ、あれは？」

アカネ 「どれ？ かえでと交換したやつ？」

サナ 「そう。あやと交換したの？」

アカネ 「五百円で売った」  
と、Vサイン。

サナ 「えっ、高っ」

かえで、驚いた顔。

アカネ 「でしょ？ かえで神」

かえで 「なんで……」

アカネ 「なに？」

かえで 「大切にするって……」

アカネ 「私のもなんだから、どうしようと勝手じゃん」

かえで、黙る。

アカネ 「かえでが交換いって言ったんだよ。ね？」

サナ達が頷く。

かえで、黙ったまま自分のシール帳を見つめる。

一枚分の隙間が空いている。

## 6. 公園の側道(夕)

裕子、アカネ達の方を見ていたが、足早に立ち去る。

## 7. 下田文具店・室内(昼)

T 「金曜日」

裕子、レジ付近で作業をしている。

アカネ、サナ、かえでを含む数人の小学生が勢いよく入ってくる。そのままシールコーナーへ。

「一人一点」と大きく書かれた紙が、目立つ位置に貼られている。

アカネ、数種類を持ってレジへ。サナも続く。

アカネ 「お願いします」

裕子 「ごめんね。一人一点までだから」

アカネ 「特別でしょ？」

裕子 「ルールだから」

アカネ 「(小声で)は？ マジケチ」

裕子、無表情でアカネを見る。

アカネ、後ろにいるサナにこそこそと話す。

サナ、驚いた表情。

アカネ、強引にサナのシールを奪って、

アカネ 「やめます」

と、商品をレジ台の上に置く。

アカネ 「かえで、行くよ」

シールコーナーにいるかえでに声をかけ、出ていく。

かえで、入口に来て、レジにいる裕子を見る。

すぐにアカネ達の方へ走っていく。

裕子、置かれたシールをコーナーへ戻す。

入口の「シール入荷」のポップを剥がす。

(おわり)